

# 社会情報学部の「弱冠」に寄せる(20周年記念特別号)

著者名(日)	荻上 紘一
雑誌名	大妻女子大学紀要. 社会情報系, 社会情報学研究
巻	21
ページ	iii
発行年	2012
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1114/00005738/">http://id.nii.ac.jp/1114/00005738/</a>



## 社会情報学部「弱冠」に寄せる

大妻女子大学

学 長 荻上 紘一

大妻女子大学の多摩キャンパスに社会情報学部が開設されて20年が経過し、「弱冠」を迎えたことに對して、大学構成員及び関係者一同で慶びを共有したい。

当時、「情報」をキーワードにする学部が続々と新設される中であって、全国で2番目の社会情報学部として開設された意義は大きい。「社会情報」という概念について、本学部のホームページには「すべての情報を社会と人間との関わりの中でとらえたものが「社会情報」です。今私たちが暮らしている社会はコンピューターやネットワークの技術に支えられています。そこでのさまざまな活動や問題点を技術と社会の両面から考え、研究する学問が社会情報学です。伝統的な学問を横につなげた、幅広い視点をもっていることが特徴です。」と解説されている。現代は「情報化社会」などといわれるが、全ての情報を社会と人間との関わりの中で捉える本学部の教育・研究の理念は、20年を経た現在でも「新鮮さ」を保ち続けている。設置の時点では、社会学、経営学、人文科学など文系分野の教育・研究を行う学部と位置付けられていたが、発展を続ける過程において順次理系の要素が加わり、文理融合の学部で成長して、現在に至っている。

本学部のホームページには「大妻女子大学社会情報学部では、21世紀の高度情報化社会において社会生活を送る上での必要な能力、すなわち情報の整理・活用力と問題解決力を習得し、生活、環境、情報の各課題に對し的確に意思決定できる「自立した個人」、自己の未来を切り開いていくことの出来る人材の養成を目指しています。」と記されている。これが、本学の教育目標である「關係的自立の育成」の下にきちんと位置付けられていることは言うまでもない。

学部の特徴として、「最新鋭高速パソコンのあるキャンパスライフ」「多様なスタイルで英語を学べる」「教員との信頼關係が個性を伸ばす」を掲げ、現代社会の変化に對応できる人材を輩出し続けている。本学部は、社会生活情報学専攻、環境情報学専攻、情報デザイン専攻の3つの専攻から構成されているが、これらの専攻は何れも「学科」に相当する教育・研究機能を備えており、学科に「昇格」させることを含めて、発展的な展開が期待される。

現代は、情報が氾濫しており、書物やインターネットにより様々な情報がいとも簡単に得られるが、大切なことは、情報を取捨選択し、整理して有効に活用することにより、問題の発見とその解決につなげることである。そのためには、溢れる情報の質を見極め、必要なものを選択し、それを基にして論理的な思考を展開する訓練をしなければならない。本学部においては、それを、「社会と人間との関わり」の視点に立って実践している。情報技術の進展は目覚ましく、昔に比べると情報量は比較にならない程増大しているが、それらが必ずしも人々の幸せに貢献しているとは限らないのみならず、反社会的な形で悪用されている場合も決して少なくはない。その様な情報化社会において、社会情報学部の教育・研究に對する期待は極めて高い。

FD活動の実践やシラバスの電子化などを10年以上前から導入して教育の改善に努めていることも、本学部の先進性を象徴している。

設立以来順調に成長を続けて「弱冠」を迎えた社会情報学部が、これからも社会のニーズに對えて着実に発展を続け、「而立」、「不惑」、「知命」、「耳順」……を迎えることを期待している。